



優
秀
賞

高萩市立高萩中学校 二年

今を生きる

黒くろ 澤さわ 琥こ 姫ひめ

祖父が、がんで入院して一年経つころ、朝母に言われま
した。

「おじいちゃん死んじゃうかもしれない。」突然の言葉に
当時小学五年生だった私は何を言われているのかよくわか
らないまま登校しました。

私ที่บ้านに帰ると祖父が使っていた車いすがリビングに置
いてありました。その日祖父は亡くなったのです。明日も
当然にあると思っていた命が今はありません。それでも私
が確かに分かることは、祖父は、もっと生きたいと思っ
ていたということです。私はまさか亡くなると思っていな
かったので、あまりお見舞いに行きませんでした。病院の
雰囲気や多くの弱っている人を見るのが怖くて行きたいと

いう気持ちにならなかったからです。しかし母が病院から
帰ってくると、祖父が

「早く会いたいな。」

と毎日のように言っていたそうです。たまに行くとき笑顔で
むかえてくれたことを今でも覚えています。もっと話して
おけばよかった。顔を見せるだけで喜んでくれたはずです。
今はもう会えません。話したくても、顔が見たくてもでき
ません。後悔の中、私は命の大切さを知りました。

最近、芸能人や学生などの若い人たちが、インターネッ
ト上の誹謗中傷のストレスで命を絶っていることとニュースで
知りました。みなさんはいじめをすることはおかしいと思
いませんか。決して良いことではありません。しかし、そ

れで命を絶ってしまうことも、良いことではないと考えました。なぜいじめてしまうのか。なぜ命を絶ってしまうのか。

今、私たちが生きていることは、私たちが望んでいなくても、誰かにとっては望んだ生であり、今生きてる私たちは、生きられなかった人の分まで生きるべきだと考えました。世界には何億人も人がいます。あなたを見てくれる人や味方をしてくれる人が必ずいます。無理にづらいと思う人と一緒に、いなくてもいいと思います。苦手な人にもはつきりと思いを伝えてみれば少しでもお互いを理解し、関係が変わると思います。無理にづらいと思う人と一緒にいなくとも、その人を手放して、自分のことを、必要だと思ってくれる人を探し出せたら、救われるのではないかと思えます。

私は中学生になり、特別授業を受けました。その授業で、弁護士が「心のコップ」の話をしてくださいました。その中で、SNSで友達同士のトラブルが起きて、仲間はずれされ、自分で命を絶ってしまったという話がありました。私は命を絶ってしまった人は「心のコップ（悲しみ）」が

あふれてしまったのではないかと思いました。あふれる前に信頼できる人や、公共の相談窓口にご相談することができていたら、何か変わっていたのかもしれませんが。この世に生まれてきて生きていることは奇跡であるので、かたんに命を絶たないでほしいと思います。

あなたの命は、あなただけの命ではありません。誰だつて幸せになれる。人生はこれから何かあるか分かりません。今つらいことが多くて苦しくても、これから楽しく明るい未来が待っているかもしれない。未来のために、つらいことがあるなら、時には逃げることも必要です。自分を守るために安全な所に逃げることは必要なことです。だからつらいからと、生きていることから逃げることはやめて下さい。なぜならあなたの存在は誰にも代わることができない大切な存在だからです。

